

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は、平成26年度から「高大連携重点型」工科高校として再出発し、「工学系・大学進学専科」を1クラス設置した。さらに、令和2年度入学生からは、工科高校のさらなる魅力づくりを踏まえ、学習内容の充実を図るとともに、1クラス35人編成による一層きめ細かな指導を行っている。

本校がこれまで培ってきた伝統や教育活動を踏まえ、スローガン（標語）である「生徒が主役！一生徒の力を伸ばし、確かな進路を実現ー」を掲げ、ものづくり人材の育成を図るため、育成する生徒像を以下に示す。

- 1 ものづくりに興味・関心をもち、基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、活用できる生徒。
- 2 自ら課題を見付け出し、思考力・判断力・表現力等を駆使し、チームワークで解決を図ることができる生徒。
- 3 工業人として高い倫理観と責任感をもち、生涯にわたって人間性の向上に努め、社会や人生に学びを生かそうとする生徒。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の育成と授業改善
- (1) 基礎的・基本的な学力の定着とともに、授業の質の向上のため学習意欲の喚起を促すPDCAサイクルを行い授業改善を図る。
- ア 生徒の実態を把握し、ICTを効果的に取り入れて「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、「魅力ある授業」「わかる授業」を推進する。
 - イ 英語の4技能（「読む・聞く・話す・書く」）をバランス良く指導し、国際的な視野を有する技術者を育成する。
 - ウ 教員の授業力向上のため、教員・保護者の授業見学や研究授業を行い、授業改善の取組みを推進する。
 - エ 家庭学習の定着と、読書活動を推進できるように学校図書館機能の充実を図る。
 - ※ 学校教育自己診断（生徒）の「授業の工夫等」を、令和8年度には70%以上にする（R3:53.7%、R4:61.0%、R5:64.2%）。
 - ※ 外部学力調査における生徒（1年生）の3教科（国数英）平均合計210点以上を確認して指導にあたる（R3:215.9点、R4:205.0点、R5:201.9点）
 - ※ 学校教育自己診断（生徒）の「ICT機器を活用した授業」を、令和8年度には85%以上にする（R3:69.0%、R4:76.8%、R5:77.8%）。
 - ※ 学校教育自己診断（生徒）の「1人1台端末の効果的な活用」を令和8年度には75%以上にする（R4:59.3%、R5:69.6%）。
 - ※ 学校教育自己診断（生徒）の「家庭学習者の増加」を、令和8年度には30%以上にする（R3:19.1%、R4:18.6%、R5:25.2%）。
 - ※ 学校教育自己診断（生徒）の「図書館機能の充実」を、令和8年度には65%以上にする（R3:60.5%、R4:60.9%、R5:59.5%）。
- (2) 「ものづくり教育」を通じて、意欲をもって学習に取り組む生徒を育成する。
- ア 生徒が望ましい勤労観・職業観を身に付けるため、企業や大学等と連携を行い、キャリア教育・職業教育の充実を図る。
 - イ 生徒が様々な資格に挑戦できるよう日々の学習活動や放課後に指導を行い、頑張る生徒を支援する。
 - ※ インターシップ参加者を、令和8年度には55名以上にする（R3:コロナ禍で実施せず、R4:32名、R5:46名）。
 - ※ 学校教育自己診断（生徒）の「実習授業満足度」を、令和8年度には90%以上にする（R3:75.5%、R4:87.9%、R5:86.6%）。
 - ※ 資格取得を推奨し、全国工業高等学校長協会（全工協会）で資格取得に応じて点数化されて、その合計点により顕彰されるジュニアマイスター制度を奨励し、特別 [T]・ゴールド [G]・シルバー [S]・ブロンズ [B] の取得者を、令和8年度には5年間の平均以上にする（R3:T0・G1・S9・B0、R4:T0・G0・S7・B0、R5:T0・G2・S5・B0）。[R1～R5平均 T-0.4・G-1.6・S-5.8・B-2.0]
- 2 夢と志をもつ生徒の育成
- (1) 豊かでたくましい人間性の育成。
- ア あらゆる教育活動における人権教育と、生徒の発達段階に応じた学年別人権教育の充実を図る。
 - イ いじめ対応や支援教育の充実のために教育相談体制の機動性を高め、学習支援活動の充実を図る。
 - ウ 生徒にマナーの向上とルールを厳守させ、遅刻件数や問題行動の防止・転退学率の減少に努める。
 - エ 部活動加入を推奨し、「部活動に係る活動方針」に則った活動と、環境整備や安全対策の強化を図る。
 - ※ 学校教育自己診断（生徒）の「人権教育等の充実度」を、令和8年度には70%以上にする（R3:42.5%、R4:61.0%、R5:65.1%）。
 - ※ 学校教育自己診断（生徒）の「いじめ相談対応」を、令和8年度には65%以上にする（R3:46.6%、R4:52.0%、R5:60.8%）。
 - ※ 学校教育自己診断（生徒）の「制服や頭髮等のルール・マナー厳守」を、令和8年度には85%以上にする（R3:67.0%、R4:78.1%、R5:79.2%）。
 - ※ 学校教育自己診断（生徒）の「授業スマホ等のマナー」を、令和8年度には75%以上にする（R3:61.9%、R4:72.7%、R5:67.6%）。
 - ※ 遅刻件数を、令和8年度には2200件以下にする（R3:2739件、R4:2833件、R5:3220件）。
 - ※ 問題行動指導を、令和8年度には件数を一桁にする（R3:13件17名、R4:12件18名、R5:17件22名）。
 - ※ 転退学率を、令和8年度には2.0%以下にする（R3:1.79% [転学1.24%、退学0.55%]、R4:2.8% [転学2.1%、退学0.8%]）、R5:4.07% [転学2.88%、退学1.19%]）。
 - ※ 部活動加入率を、令和8年度には65%以上にする（R3:67.4%、R4:67.0%、R5:60.0%）。
- (2) 生徒の自己実現に向けた支援を図る。
- ア 進路実現に向けた分掌・学年・教科の連携を深め、生徒の自己実現に向けた指導の充実を図る。
 - イ 就職・進学希望者等の多様な進路希望の実現を図るため、きめ細かな進路指導を行う。
 - ウ 卒業3年後の離職率調査を実施し、就職指導に生かす。
 - エ 大学進学者への学習状況調査を実施し、進学指導に生かす。
 - ※ 学校教育自己診断（生徒）の「進路に関する行事の充実」を、令和8年度には90%以上にする（R3:72.5%、R4:79.0%、R5:85.6%）。
 - ※ 就職一次合格率を、毎年工科平均以上にする（R3:84.0% [工科平均85.4%]、R4:86.2% [工科平均91.2%]、R5:91.4% [工科平均90.0%]）
 - ※ 就職希望者内定率を、令和8年度も100%を維持する（R3:100% [159名]、R4:100% [146名]、R5:100% [124名]）
 - ※ 大学進学希望者実現度を、令和8年度には100%にする（R3:98.1% [53名]、R4:98.0% [47名]、R5:95.4% [42名]）
 - ※ 3年後の離職率を、令和8年度[令和5年度入社]には28.4%（5年間の平均）以下にする（R3 [H30入社]28.4%、R4 [H31入社]30.2%、R5 [R2入社]28.0%）[R1～R5平均28.4%]
- 3 信頼される魅力ある学校づくり
- (1) 広報活動の充実を図り、志願者の安定的確保を図る。
- ア 中学校訪問や出前授業、学校説明会の精査・充実を図る。
 - イ 地域の幼・中学校等との連携を深め、工科高校の理解と学校活性化を促進する。
 - ウ 中学卒業生が減少する中、入学者選抜の志願者倍率を総合募集・工学系ともに1倍以上確保する。
 - ※ 幼・中学校との連携を、令和8年度には2回以上にする（R3:1回、R4:1回、R5:1回）。
 - ※ 志願倍率を、毎年総合募集・工学系ともに1倍以上確保する（R3 [総合] 0.89倍 [工学] 0.94倍、R4 [総合] 1.10倍 [工学] 0.91倍、R5 [総合] 0.96倍 [工学] 0.94倍）。[R1～R5平均 [総合] 0.98倍 [工学] 1.10倍]
- (2) 工業高校生対象の大会等へ参加し、全国大会出場と上位結果をめざす。
- ア 旋盤・電気工事・電子回路組立などものづくり大会へ参加や、課題研究作品をコンテストに応募するなど、全国大会出場や入賞をめざす。
 - イ マイコンカーラリー・ロボット相撲大会・パソコン甲子園等に参加し、全国大会出場や入賞をめざす。
 - ※ 高校生ものづくり大会旋盤部門を、毎年近畿大会優勝・全国大会出場をめざす（R3近畿大会優勝・全国大会出場、マイコンカーラリー全国大会出場、R4ものづくり大会近畿出場・マイコンカーラリー全国大会出場・ロボット相撲全国大会出場、R5ものづくり旋盤近畿大会出場、溶接全国大会8位、マイコンカーラリー全国大会2台出場、ロボット相撲全国大会ベスト8）。
 - ※ 全工協会の高校生技術・アイデアコンテスト全国大会に課題研究作品を応募し、上位入賞をめざす（R3:1作品「理事長特別賞」、R4:1作品「佳作」、R5:1作品「優秀賞」）
- (3) 工科高校のさらなる魅力づくりを推進するため、学校組織の改善を図る。
- ア 五役会（校長・教頭・首席・指導教諭・事務長）で学校課題を分析・検討し、解決に向けて迅速な対応を図る。
 - イ 令和6年度の再編整備完成に向けて、校内PTを組織して先行する工科高校6校を参考に、計画の策定・運用方法の検討を進める。
 - さらに、令和7年度入学生からの「基礎・基本の見直し」及び「深化と接続コースの設置」等の再編に向けて検討する。
- 4 校務の効率化と職場環境づくりの推進

（１）校務の効率化 ア ICT を活用して、校務の効率化を図る。 ※ 校務の効率化を、毎年１件以上図り、業務軽減につなげる（Ｒ３：１件[欠席フォームの設定・運用]、Ｒ４：２件[学校教育自己診断をフォーム作成ツールで実施・保護者向け案内のデジタル化]、Ｒ５：２件[学校見学会の申し込み方法を WEB に変更。職員連絡掲示モニターの増設] （２）職場環境づくりの推進 ア 「より働きやすい職場環境づくり」を推進するため、ストレスチェック結果を踏まえて労働安全衛生委員会で議論を行い、改善策を図っていく。 イ 学校保健委員会、労働安全衛生委員会を活性化するとともに、「大阪府部活動の在り方に関する方針」・「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」などを踏まえ、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。 ※ ストレスチェック結果における「量的負担・仕事の負担リスク・総合リスク」を、毎年基準値（８.７・100・100）より低く抑える（Ｒ３：8.8・104・104、Ｒ４：8.7・98・91、Ｒ５：8.7・98・88）。 ※ 学校教育自己診断（教員）の「職場での相談・人間関係」の肯定率を、令和８年度には70%以上にする（Ｒ３：66%、Ｒ４：61.3%、Ｒ５：66.7%）。 ※ 在校等時間管理に努め、時間外勤務者のうち月 80 時間以上を令和８年度には15 名以下にする（Ｒ３：13 名、Ｒ４：19 名、Ｒ５：21 名）。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月 実施〕	学校運営協議会からの意見
アンケート回収率 ・生徒 82.8 (78.6) % 保護者 40.4 (48.3) % 教員 52.9 (52.2) % （ ）内は昨年度 ○生徒 昨年度に比べて、特に肯定率の増減があった項目 ・質問項目9「自分の考えをまとめたり、発表する授業が多い」55.5%→70.5% (+15.0%) 本年度、特に肯定率が高い項目 【1年】質問項目22「体育祭や文化祭など生徒会活動は盛んと思う」(91.8%) 【2年】質問項目22「体育祭や文化祭など生徒会活動は盛んと思う」(89.3%) 【3年】質問項目10「提出物は期限内に出している」(89.4%) 【分析】 質問項目9「自分の考えをまとめたり、発表する授業が多い」の肯定率が70.5%で、昨年度より15.0%の増加となっている。理由としては、1人1台端末の普及・活用、新学習指導要領の本格実施が始まり、各教科・科目でPBLの導入や教材開発等を行ったからであると考ええる。 ○保護者 昨年度に比べて、特に肯定率の増減があった項目 ・質問項目15「学校行事には子どもは楽しそうに取り組んでいる」78.6%→88.7% (+10.1%) 本年度、特に肯定率が高い項目 【1年】質問項目12「淀工は他の学校にない特色があると思う」(96.4%) 【2年】質問項目14「文化祭や体育祭など、生徒会活動が活発である」(92.0%) 【3年】質問項目16「工科高校に進学して、子どもにとってはよかったと思う」(94.9%) 【分析】 質問項目15「学校行事には子どもは楽しそうに取り組んでいる」の肯定率が88.7%で、昨年度より10.1%の増加となっている。理由としては、コロナ禍も終わり、本来の本校の特色である「生徒が主役！！」のスローガン通りに行事等を生徒主体で実施できており、その姿を多くの保護者・地域の方々に見ていただけるようになってきたからであると考ええる。 ○教員 昨年度に比べて、特に肯定率の増減があった項目 ・質問項目6「授業は思考力を重視した問題解決的な学習指導を行うなど、工夫や改善を行っている」83.3%→70.3% (-13.0%) ・質問項目8「生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している」91.7%→73.0% (-18.7%) ・質問項目26「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」77.8%→64.9% (-12.9%) ・質問項目33「いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」88.9%→73.0% (-15.9%) ・質問項目40「コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている」94.4%→81.1% (-13.3%) 【分析】 質問項目6「授業は思考力を重視した問題解決的な学習活動を行う等、工夫や改善を行っている」の肯定率が70.3%で、昨年度より13.0%の減少となっている。 質問項目8「生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している」の肯定率が73.0%で、昨年度より18.7%の減少となっている。 質問項目26「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」の肯定率が64.9%で、昨年度より12.9%の減少となっている。 質問項目33「いじめ（疑いを含む）が起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」の肯定率が73.0%で、昨年度より15.9%の減少となっている。 質問項目40「コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている」の肯定率が81.1%で、昨年度より13.3%の減少となっている。 いずれの項目についても理由としては、高い肯定率で推移しており、高止まりのような状態になっているからであると考ええる。	○第1回学校運営協議会 令和6年7月24日（水） ・上方修正されている項目が多い中、遅刻件数についてご苦労されているように感じる。在籍数が減ってきているのに総件数が増えている。 総件数で検討比較されるよりも一人当たりにした方がわかりやすいのではないか。 ・電子黒板が設置され、使用している教員も使い勝手がよくなったことはいいことだ。 ・インターンシップの数が、コロナが終わり増えてきている。 また、就職の求人数も増えてきていることは良いことだ。 ・学校見学会をホームページからの申し込みに変更されたことは良いことだ。 ・中学校でも家庭学習の定着は低いのに、高校で家庭学習を重視されていることに驚いた。 ・3系合同でものづくり（課題研究）されているのはいいと思う。 ○第2回学校運営協議会 令和6年11月22日（金） ・授業内容が非常に興味深い。中学生が見たら興味を示すのではないか。 中学としては、希望する高校を1回は見に行くように指導している。 ミスマッチをなくすため、高校として複数回実施してもらうのはありがたい。 引き続き続けてほしい。 ・子供が主体的。教員も生徒も楽しそうに取り組んでいることが印象的だった。今後もお互い楽しめる授業を期待している。 ・学校見学会で、枠が埋まってしまうのは、そもそもの枠が少ないのではないか。 ・定員が割れているので、非常にもったいない。OB 会を含めて対策を練ってもらいたい。 ○第3回学校運営協議会 令和7年1月17日（金） ・そもそもの目標値が高いため、実態が追いついていない。決して学校が悪くなっているわけではない。 ・項目の中にはアンケート結果で良い数値として8割半ばもあるのに、それがほんの少し目標値を下回っただけで△になるのは少し厳しいと思う。 そもそもが高水準なので、現状維持でもよいと思う。 ・9割に近ければ、「みんな満足」で良い結果と思う。 ・メカトロニクス系は、ロボットを中心に様々な取り組みをしている。 CAD／CAM における取り組みは面白い。

--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 確 かな 学 力 の 育 成 と 授 業 改 善	(1)学力の定着と、 授業改善 ア 「魅力ある授業」「わかる授業」の推進	(1) ア・「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、「魅力ある授業」「わかる授業」を推進する。特に1年生は、外部学力調査による学力検査と結果の経年変化を確認し、その後の教科指導に生かす。 ・教育実践に ICT を効果的に取り入れ、学びの深化を図る。 ・PBL を取り入れ、能動的な学習態度を養う。	(1) ア・学校教育自己診断「授業の工夫等」66%以上 [64.2%] 生徒の経年値学力の変化検証 入学時の教育産業の基礎力調査(国数英)の平均計 210 点以上[合計 201.9 点:国 69.5 点、数 66.5 点、英 65.9 点] ・学校教育自己診断「ICT 機器を活用した授業」80%以上 [77.8%] ・学校教育自己診断「学校は、1 人 1 台端末を効果的に活用している」70.0%以上[69.6%] ・学校教育自己診断「自分の考えをまとめ、発表する」58%以上[55.5%]	(1) ア・学校教育自己診断 授業の工夫 63.9% (1 年 64.3%、2 年 59.9%、3 年 69.1%) (△) ・1 年入学時の平均点 198.1 点/300 点満点 (△) (国語 68.9 点 数学 64.8 点 英語 64.4 点) ・学校教育自己診断 ICT 80.9% ICT の効果的な取り入れが進んでいる。 (1 年 83.1%、2 年 74.6%、3 年 87.0%) (○) ・学校教育自己診断 1 人 1 台 76.5% さらに向上をめざす。 (1 年 83.6%、2 年 75.1%、3 年 68.2%) (◎) ・学校教育自己診断 自分の考え 70.5% (1 年 82.5%、2 年 66.6%、3 年 59.4%) (◎) 特に1年生で向上した。
	イ 英語の4技能指導による技術者の育成	イ・英語学力調査を実施し、昨年度との4技能結果を比較し、成果と課題を分析し、英語教育の指導に生かす。	イ・前年度と今年度の英語学力調査の4技能向上比較 2 年生 教育産業の GTZ [D 1 -] スピーキング GTEC [A1. 3] 3 年生 工学系で GTEC を実施 4 技能トータル[A1. 3] スピーキング [A2. 1] 英検 [4 名合格/14 名受験]	イ 2 年生 スピーキング [A1. 1] (△) 3 年生 4 技能トータル[A2. 1] (○) ・英検 (△) 3 級 3 名受験／3 名合格 準 2 級 3 名受験／合格なし 2 級 1 名受験／合格なし
	ウ 教員・保護者の授業見学や研究授業等による授業	ウ・教科ごとの公開研究授業を実施。教員・保護者の授業見学、授業改善の取組みを進める。	ウ・授業見学 1 人 3 回以上 [3.1 回]	・前期調査 2.4 回/1 人 後期調査 2.8 回/1 人 (△)
	エ 家庭学習と学校図書館機能の充実	エ・家庭学習の定着とともに、学校図書館機能の充実(本の更新及び活用度)を図る。	エ・学校教育自己診断「家庭学習者の増加」27%以上 [25.2%] ・学校教育自己診断「図書館機能の充実」63%以上 [59.5%]	エ・学校教育自己診断 家庭学習 23.8% 特に2年生が低かった。 (1 年 25.8%、2 年 19.2%、3 年 27.7%) (△) ・学校教育自己診断 図書館 58.3% (1 年 58.5%、2 年 56.0%、3 年 61.8%) (△)
	(2)ものづくり教育による生徒育成 ア キャリア教育・職業教育の充実	(2) ア・企業や大学等の連携を行い、授業・HR 等において、キャリア教育やデジタル化対応産業教育装置を活用し、職業教育の充実を図る。	(2) ア・インターンシップ参加者数: 50 名以上 [46 名] ・学校教育自己診断「実習授業満足度」88%以上 [86.6%]	(2) ア・インターンシップ 47 名 指標にはわずかに届いていないが、昨年度より 1 名上昇し、概ね達成 (○) ・学校教育自己診断 実習満足 84.3% (1 年 79.5%、2 年 85.9%、3 年 88.6%) 3 年生で高い満足度となっている (△)
2 夢 と 志 を も つ 生 徒	イ 資格取得への支援	イ・様々な資格取得を組織的に進め、生徒の付加価値を高める。	イ・ジュニアマイスター: ★過去5年平均 [T0.4,G1.6,S5.8,B2.0] 以上 [T0,G2,S5,B0]	イ・ジュニアマイスター T0,G1,S2,B1 (△)
	(1)豊かでたくましい人間性の育成 ア 人権教育の充実	(1) ア・人権講演会や人権 HR を実施し、合理的配慮を踏まえた「ともに学び、ともに生きる」教育を推進し、共生社会を学ぶ。	(1) ア・学校教育自己診断「人権教育等の充実度」67%以上 [65.1%]	(1) ア・学校教育自己診断 人権 62.6% さらに充実を図る。 (1 年 55.6%、2 年 70.0%、3 年 61.8%) (△)
	イ 教育相談体制の充実 ウ マナー向上と	イ・支援教育コーディネーターを中心に関係教員の連携を強化し、いじめ対応も含めた教員による相談対応の充実を図る。 ウ・学校生活におけるルールやマナーの徹底を	イ・学校教育自己診断「いじめ相談対応」63%以上 [60.8%] ウ・学校教育自己診断「制服や	イ・学校教育自己診断 いじめ相談 54.8% (1 年 57.3%、2 年 53.1%、3 年 53.7%) (△) ウ・学校教育自己診断 ルール・マナー76.0%

府立淀川工科高等学校

手の育成	ルール厳守、遅刻件数や問題行動の防止・転退学率の減少	教室掲示等をもって図る。 ・より丁寧な生徒指導により、遅刻件数の減少を図る。 ・集会時や日々の学校生活において啓発を行い、問題行動の防止に努める。 ・きめ細かな生徒指導、学習指導により転退学率の減少を図る。	頭髪等のルール・マナーを守る」83%以上 [79.2%] ・学校教育自己診断「授業のマナー（スマホ等）」70%以上 [65.8%] ・遅刻件数：2600 件以下 [3220 件] ・問題行動指導：件数一桁 [17 件] ・転退学率：2.5%以下 [4.07%]	(1 年 82.5%、2 年 75.7%、3 年 67.5%) (△) ・学校教育自己診断 スマホ 65.8% (1 年 70.2%、2 年 66.1%、3 年 59.3%) (△) ・遅刻 3789 件 ・問題行動 15 件 29 名 ・転退学率 3.12% (転学 16 名・退学 2 名) ・部活動加入 全体 63% (1 年 70%・2 年 58%・3 年 61%) (○) さらに加入率アップをめざす。
	エ 部活動の振興	エ・部活動加入を促進し、「部活動に係る活動方針」に則った効率的な活動を図り、活気ある高校生活を送れるよう、環境整備や安全対策の強化を図る。	エ・部活動加入率：63%以上 [60.0%]	・部活動加入 全体 63% (1 年 70%・2 年 58%・3 年 61%) (○) さらに加入率アップをめざす。
	(2) 生徒の自己実現の支援 ア 進路実現に向けた指導の充実	(2) ア・生徒の自己実現に向けた取組みを支援するため、進路に関する指導の充実を図る。 ・就職一次合格率の向上を図る。	(2) ア・学校教育自己診断「進路に関する行事の充実」87%以上 [85.6%] ・就職一次合格率：工科平均以上 [91.4%、工科平均 90.0%] イ・就職希望者内定率：100% [就職 100%] ・大学進学希望者実現度：100% [進学 95.4%]	(2) ア ・学校教育自己診断 進路 81.5% (1 年 80.7%、2 年 80.8%、3 年 83.8%) (△) ・就職一次合格率：93.8% (106 名/113 名) (◎) 工科全体平均 90.2% イ ・就職希望者内定率 100% ・大学進学希望者実現度 98.1%
	イ 進路希望の実現	イ・就職希望者の進路実現に向け、きめ細かな就職指導を行う。 ・大学等進学希望者の進路実現に向け、きめ細かな進学指導を行う。	イ・就職希望者内定率：100% [就職 100%] ・大学進学希望者実現度：100% [進学 95.4%]	イ ・就職希望者内定率 100% ・大学進学希望者実現度 98.1%
	ウ 離職率調査の実施	ウ・卒業 3 年後の離職率調査を継続し、就職指導に生かす。	ウ・離職率：26.0%以下 [28.0%、回収率 97.6%]	・離職率 25.3%[回収率 91.6%] (○)
	エ 大学進学者に対する学習状況調査の実施	エ・大学進学者への学習状況調査を継続実施し、進学指導に生かす。	エ・大学進学者への調査、課題の分析と対応 [回収率 48.4% (63/130)] 課題 ⇒数Ⅲ・物理・英語 数学・物理は圧倒的に理解力に差がある。 優位性 ⇒資格取得、実技・専門科目の知識、レポート作成能力、製図、情報関連知識	・[回収率 49.3% (70/142)] 課題 ⇒数Ⅲ・物理・英語に課題がある。 特に数学・物理は圧倒的に理解力に差がある。 優位性 ⇒資格取得、実技・専門科目の知識、レポート作成能力、製図、情報関連知識
3 信頼される魅力ある学校づくり	(1) 広報活動と志願者確保 ア 広報活動の精査・充実	(1) ア・中学校訪問や出前授業、学校説明会の精査・充実を図る。	(1) ア・出前授業 [3 校]、学校説明会 [22 件]、随時学校見学会 [7 件]	(1) ア ・出前授業校 7 校・学校説明会 26 件 随時学校見学会 6 件 3 年生による母校訪問 4 校 (○)
	イ 地域との連携と学校活性化	イ・地域の幼・中学校との連携を深め、工科高校の理解と学校活性化を促進する。	イ・幼・中学校との連携：2 回以上 [幼 1 回]	イ ・幼 1 回 (△)
	ウ 志願者倍率の確保	ウ・様々な機会を捉えて学校 PR を行い、入学者選抜の志願者を確保する。	ウ・志願者倍率：総合・工学とも 1.0 倍以上 [[全体]・0.96 倍 [総合]・0.96 倍、[工学]・0.94 倍]	ウ ・HP のブログ更新 93 回 さらに本校の魅力を発信する。 ・志願者倍率： 全体 176 名/募集 210 名 0.84 倍 総合 156 名/募集 175 名 0.89 倍 工学 20 名/募集 35 名 0.57 倍
	(2) 工業高校生対象の大会等への参加と結果 ア ものづくり大会等への参加と結果	(2) ア・学習成果の場として、ものづくり大会やコンテスト等へ参加し、上位入賞をめざす。	(2) ア・ものづくり大会やコンテスト等の成果 [旋盤作業部門 大阪大会優勝、近畿大会出場・溶接部門 近畿大会優勝、全国大会 8 位・高校生アイデア技術コンテスト 優秀賞]	(2) ア ・旋盤作業部門 大阪大会優勝、近畿大会準優勝 高校生アイデア技術コンテスト 佳作
	イ マイコン利用した大会への参加と結果	イ・マイコンを利用したマイコンカーレース・ロボット相撲・パソコン甲子園等へ参加し、上位入賞をめざす。	イ・マイコンカー、ロボット相撲・パソコン甲子園等の成果 [マイコンカー全国大会 2 台出場・高校生ロボット	イ ・マイコンカーラリー 近畿地区大会第 5 位 ⇒全国大会出場 高校生ロボット相撲 近畿地区大会 自立型 3kg 級 優勝・準優勝⇒全国大会出場 自立型 500g 級 優勝・準優勝

府立淀川工科高等学校

	(3)さらなる魅力づくりと学校組織の改善 ア 学校課題の対応と迅速な実行 イ 学校改編に向けた取り組み	(3) ア・五役会（校長・教頭・首席・指導教諭・事務長）で学校課題を分析・検討し、解決に向けて迅速な対応を図る。 イ・工科高校のさらなる魅力づくり検討する。 ・「基礎・基本の見直し」及び「深化と接続コースの設置」等の再編に向けて検討する。	相撲全国大会ベスト8・全日本ロボット相撲ベスト32] (3) ア・五役会での課題解決への内容を示す [欠席連絡保健室への一本化、ペーパーレス運会・職会・学校説明会の在り方検討。行事の開催時期の検討。生徒の母校訪問検討。出席簿のICT化検討。オンライン職会の検討。] イ・学校改革への取組み：再編整備に関連する会議の実績を示す	⇒全国大会ベスト16（◎） (3) ア 以下の課題等について、分析・検討を20回実施し迅速な対応を図った。（○） ・3年生の母校訪問 ・学校見学会（授業見学、施設見学、クラブ体験） ・文化祭の活性化プロジェクト ・合同担任部屋を準備中 ・OBを講師として招き講習会 イ 会議を計7回開催し、以下の内容について、議論を深めた。（○） ・深化と接続コースの充実について ・新たな設備の導入について ・実習内容の見直しについて
4 校務の効率化と職場環境づくりの推進	(1)校務の効率化 ア ICTを活用した校務の効率化 (2)職場環境づくりの推進 ア 「より働きやすい職場環境づくり」の推進 イ 生徒・教職員の健康管理体制の充実	(1) ア・ICTを活用した校務の効率化を図る。 (2) ア・「より働きやすい職場環境づくり」の推進を図る。 イ・部活動方針を遵守し、働き改革を踏まえ、時間外勤務時間の縮減を図る。	(1) ア・効率化：1件以上 [2件：学校見学会の申し込み方法をWEBに変更。職員連絡掲示モニターの増設] (2) ア・ストレスチェックの「量的負担・仕事の負担リスク・総合リスク」：基準値 [8.7・100・100]以下 [8.7・98・88] ・学校教育自己診断「職場での相談・人間関係」68%以上 [66.7%] イ・時間外勤務月80時間以上の縮減：18名以下 [21名]	(1) ・出席簿の日々PC入力を準備中 ・生徒指導業務を電子化し、効率化を図った。（自転車許可、頭髪・自転車指導にQRコードを使用、生活指導事案の学年共有スレッド化）（○） (2) ア ・「量的負担・量コントロール健康リスク・総合リスク」：[9.0・100・95]（○） ・学校教育自己診断 職場の人間関係 56.7%（△） イ・労働安全衛生委員会：月1回実施 時間外勤務時間：80時間以上 10名（○）